

2026 年 日本バイオインフォマティクス学会年会 の参加報告

共通機器室 共通利用機器管理班 森原 なぎさ

1. はじめに（目的等）

次世代シーケンサーデータ依頼解析業務を行うにあたり、最先端の情報を広く効率的に収集する必要があるため、本会に参加した。

2. 期間・場所

期間：令和8年8月26日～8月27日

場所：小田急ホテルセンチュリー相模大野

3. 参加者等

バイオインフォマティクスに携わる大学、研究機関、企業の関係者

4. 研修内容

- ・基調講演
- ・ワークショップ
- ・一般口頭発表
- ・ポスターセッション
- ・スポンサードセッション
- ・ランチョンセミナー

5. まとめと感想

バイオインフォマティクスにおいては、AI エージェントの登場により、今やコードをコピー＆ペーストする必要さえなくなりつつある。一方で解析プロセスの確認や解析内容の選択など、依然として人が担うべき部分もあり、今後のバイオインフォ教育をどのように行うべきかについての議論もあった。

AI を活用したツールやデータベース開発に関する発表も目立ち、生成 AI の DNA 配列版ともいえるゲノム言語モデル（gLM）を扱った研究も複数見られた。技術の進展が非常に速くその流れを追うだけでも容易ではないが、将来的に標準的な技術となり得るものを見極めながら継続的にカバーしていきたい。

このような技術の進展に伴い従来型のデータ解析依頼は今後減少していく可能性があるが、AI エージェントを解析に活用するメリットは非常に大きいため、より多くの学内利用者がこうした技術を活用できるよう、支援できることを検討していきたい。